

令和4年第4回吉田町議会定例会（令和4年12月1日開会）

町長の行政報告

令和4年第4回吉田町議会定例会の開会に当たりまして、町政運営の概要等についてご報告申し上げます。

コロナ禍で迎える3度目の冬が到来し、本年も残すところあとひと月となりました。一旦は落ち着きを見せていた新型コロナウイルスの感染者数は、11月に入ってから全国的に再び増加傾向が続き、県内では、11月23日におよそ2か月ぶりに3,000人を超える感染者が確認されております。

このような状況の中、11月22日に国内では初めてとなる国産の新型コロナウイルス治療薬の使用が緊急承認されました。この治療薬は軽症者も服用できる飲み薬で、症状改善までの期間を短縮する効果があるといわれており、当初の予定を前倒しし、11月28日から本格的に医療機関への供給が開始されております。重症化を防ぐ有効なコロナ対策の一つとして、アフターコロナに向かう兆しと期待をしているところでございます。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響によりこれまで開催が見送られてまいりました小山城まつりが11月3日、3年ぶりに開催され、小山城周辺は大勢の人でにぎわいました。会場では、町の魅力を発信しようとして地元農家の皆さまが吉田田んぼで採れたお米と大井川の伏流水で作った「吉田ライスラガー」の試飲をはじめ、町と交流のある福岡県八女市のクラフトビールの販売、町内を中心とした事業所や団体などが出店するテントがずらりと軒を連ね、訪れた人たちが、お目当てのものを買い求めたり、互いに会話を楽しんだりしながらコロナ禍の中で鬱屈した気持ちを晴らすようにたくさんの笑顔が溢れていました。

私は終日、会場でその様子を拝見し、やはり人々は「にぎわい」や「触れ合い」を求めているのだと思うとともに、コロナ禍を経験し、その価値が何より代え難いものであるということに改めて実感いたしました。コロナ禍を経て多少なりとも変化する部分はあったとしても、コロナ以前の当たり前だった風景が確実にそこにあり、コロナ禍における一助の光を見出した気がいたしました。

また、11月9日には吉田町表彰授与式を挙行し、これまでの長きにわたりそれぞれの分野で町の発展のためにご尽力いただいた20名の方々に表彰状や感謝状、記念品を贈り、感謝の意をお伝えしたところでございます。本年度の受賞者の中には、3年前に男子400メートルリレーにおいて日本中学記録を塗り替え、全国

を制覇した吉田中学校陸上競技部のメンバーで、令和4年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会において再び日本一に輝いた2人の高校生に表彰状を授与いたしました。そして先月、彼らが袋井市のエコパスタジアムで開かれた第13回エコパトラックゲームズにおいて、男子400メートルリレーで「39秒34」の日本高校新記録を樹立したといううれしいニュースが飛び込んできた際には、全身に鳥肌が立ち、感動を覚えた次第でございます。県外の高校に通う2人ではございますが、この町で育った若者がこうした歴史に残る偉業を成し遂げたということは、私も町民の一人として大変誇らしく、町民の皆さまに夢や希望を与えてくれる明るい話題として触れさせていただきました。

また、明後日の12月3日には、第23回しずおか市町対抗駅伝競走大会が静岡市内で開かれます。昨年、町の部において悲願の初優勝に輝いた吉田町チームは、2連覇とチーム記録である「2時間17分26秒」の更新を目標に掲げ、小学4年生から大人までの総勢56人が6月から練習に励んでまいりました。当日は選手一人一人がそれぞれの役割を果たすとともに、全力で駿河路を駆け抜け、大きな目標を成し遂げてくれることを期待しているところでございます。

こうした町民の皆さまの活躍は、町を沸かせ、町を元気にする原動力となるものでございます。町といたしましては、今後もより多くの皆さまが活躍できる土壌を町民の皆さまと一緒に築いていくとともに、この町が更に魅力あるまちへと躍進できますよう、明るい未来に向かって様々な施策を展開してまいります。

それでは、令和4年度に入り、8か月が経過しました本年度の主な事業の進捗状況につきましてご報告申し上げます。

災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり

■吉田漁港におけるレベル2の津波対策

吉田漁港におけるレベル2の津波対策につきましては、胸壁や陸閘などの海岸保全施設と多目的広場などの漁港施設との多重防護により1000年に一度の大津波に対応するための整備を進めております。多目的広場上部に防潮堤と広場をつなぐ通路の整備や災害時に防災ヘリポートの機能を有するスペースに芝生を植生する工事については、本年度中に完成する見込みでございます。また、昨年度に引き続き、漁港内における漁船の航路の開口幅がどの程度であれば既存の陸閘や胸壁などにより漁港背後地を守ることができるかを把握するための津波シミュレーション業務を実施しているところでございます。

■治水対策推進事業

坂口谷川流域の治水対策につきましては、「坂口谷川水災害対策プラン」に基づき、宮裏川の浸水対策として合流部に設置している3号ポンプ増強のための測量設計業務を進めているところでございます。

湯日川流域の治水対策につきましては、9月の台風15号においてこの流域内

で家屋の床下浸水や道路の陥没、約20か所の路線で道路冠水が発生するなど多数の被害が発生いたしました。今回の浸水被害により、流域の浸水被害軽減を喫緊の課題として改めて捉え、対策の検討を進めているところでございます。現在は、過去に発生しました内水被害の調査や流域の状況調査、河川や水路の測量などの基礎調査をおおむね年内に完了し、年明けからは、内水処理方式や手法を具体的に検討するとともに、治水対策計画を早期に策定し、より一層の治水対策の強化を図ってまいります。

■河川改修事業

河川の流下能力を高めるため、国の交付金を活用し、令和3年度の繰越事業として進めております大窪川改修工事につきましては、出水期明けの11月に現場工事に着手しており、本年度末までに約70メートルの区間の護岸整備を完了する予定でございます。

■交通安全対策事業

「吉田町 子供の移動経路に関する交通安全プログラム」に基づき、本年度、2回目となります「吉田町子供の移動経路交通安全推進会議」を10月に開催し、危険箇所の対策について検討いたしました。子どもたちをはじめ町民の皆さまが安心して道路を利用することができるよう、順次、区画線の引き直しや転落防止柵の更新などの交通安全対策を進めてまいります。

■木造住宅の耐震化プロジェクト「TOUKAI-0」事業

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、これまでに旧耐震基準で建築された住宅の311戸を訪問し、県や静岡県建築士会の協力をいただきながら、リーフレットなどを用いて耐震化や補助制度について説明してまいりました。さらに、対象家屋の所有者に郵送したダイレクトメールに対しましては119通の返信があり、11月28日時点で、無料耐震診断に40件の申し込みをいただいております。木造住宅の耐震補強事業に6件、ブロック塀等撤去事業に11件の申請をいただいている状況でございます。

今後も引き続き、広報よしだや町ホームページなどを活用し、補助制度を周知するとともに、戸別訪問等を通して耐震化を呼び掛けることにより、ブロック塀等撤去を含めた耐震化促進事業の実施につなげ、地震に強いまちづくりを推進してまいります。

■総合防災訓練

本年度の総合防災訓練は、静岡県と島田市、牧之原市、川根本町及び吉田町の共催により、9月4日に大規模地震の発生を想定して実施され、町内の11会場と各自主防災会がそれぞれ計画した会場において、約8,500人が参加いたしました。

メイン会場となる吉田中学校においては、消防署や警察などの協力の下、倒壊家屋や多重事故からの救助救出、道路啓開訓練を行うとともに、初期消火や煙ハウスによる煙中避難、体育館での救護所開設運営、救助資機材の取扱い訓練など

を実施いたしました。また、中央小学校では、新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設運営や物資の受入れ、県防災アプリを利用する訓練を行い、吉田漁港では、海上自衛隊や海上保安庁と連携した船による物資の輸送訓練を、川尻防潮堤多目的広場と河川防災ステーションではヘリコプターの離着陸誘導訓練を、吉田町防災公園では自衛隊の救助資機材や防災関係車両などの展示訓練などを行い、自主防災会をはじめ多くの町民の皆さまに参加していただきました。

また、今回の訓練では、災害時協力支援体制の強化を図ることを目的に、県や関係団体、町内企業などと連携し、12件の災害協定の活用と検証を行うこともできました。

12月4日に実施される地域防災訓練においては、総合防災訓練の内容を踏まえ、初期消火訓練や県防災アプリを活用した訓練などが各自主防災会において計画されておりますので、町といたしましては、それぞれ地域の実情に応じた訓練が実施できるように協力し、地域防災力の向上に努めてまいります。

誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり

■新型コロナワクチン接種

新型コロナワクチン接種につきましては、引き続き、吉田町総合体育館での集団接種を核とし、町内クリニック等における個別接種などで補完する形で接種体制を確保しているところでございます。9月26日からは12歳以上へのオミクロン株対応のワクチン接種を、9月30日からは5歳から11歳までの小児への3回目接種を、11月5日からは生後6か月から4歳までの乳幼児への初回接種を開始し、特にオミクロン株対応のワクチン接種につきましては、国の要請に基づき、年内に希望される全員に対して接種する体制を確保しております。

冬が深まるにつれ、気温の低下とともに新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行が危惧されておりますので、様々な年代の皆さまが新型コロナワクチンの接種を検討していただく際に必要な情報を町ホームページなどを通じて適時適切にお伝えするとともに、これまでと同様に安全で円滑に接種できる体制の維持に努めてまいります。

■吉田町子育て世帯特別給付金支給事業

国の地方創生臨時交付金を活用して実施する吉田町子育て世帯特別給付金支給事業につきましては、コロナ禍における原油価格・物価高騰などにより窮する子育て世帯が日常生活を維持するための一助となりますよう、所得に関係なく町内に住所を有する中学3年生までの児童がいる全世帯に、町独自で児童1人当たり3万円を支給するものでございます。申請が不要なプッシュ型で支給することができる児童手当対象者の2,029人に対しては、11月にお知らせ通知を発送し、12月23日に指定口座に振り込むことができるよう事務を進めているところでございます。また、受給に申請が必要な対象者にも、同じく11月にお

知らせ通知を発送し、申請内容を審査した後、随時、指定の口座に振り込む予定でございます。

■電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金

電気・ガス・食料品等の価格高騰による家計への負担増を踏まえ、特に影響が大きい低所得世帯を緊急的に支援するため、令和4年度分の住民税均等割が非課税の世帯などに対し、1世帯5万円を給付する電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業を実施しております。

この事業は、9月30日を基準日として、給付の対象となる1,336世帯へ11月に確認書を発送するとともに、本年1月以降に予期せず家計が急変し、収入が減少したことで住民税非課税相当と見なされる家計急変世帯からの申請を受け付けているところでございます。この給付金につきましては、対象となる皆さまが1日でも早く受給することができ、日常生活を維持するための一助となりますよう引き続き迅速に事務を進めてまいります。

■第4期吉田町地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定

地域における社会福祉を推進するため、平成29年度に策定しました第3期吉田町地域福祉計画・地域福祉活動計画の計画期間が本年度をもって終了しますことから、これまでに吉田町地域福祉推進委員会を2回開催し、昨年度に実施しました基礎調査の結果を踏まえながら現計画の基本方針や理念、目標、課題などについて整理するなど、今後の具体的な施策について検討を重ねているところでございます。今後も推進委員会の皆さまからご意見をいただきながら、本年度末までに第4期吉田町地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定し、吉田町社会福祉協議会と連携を図り、子どもから高齢者、障害者など誰もが地域で支え合う地域づくりを目指して様々な施策に取り組んでまいります。

活力あふれる産業振興のまちづくり

■商工業振興事業費補助金

長引く新型コロナウイルスの感染拡大や物価高騰により深刻な経済的影響を受けております町内の小規模事業者や家庭を支援するため、吉田町商工会が実施しております「第5弾プレミアム付商品券発行事業」に対し、商工業振興事業費補助金の交付による事業支援を行っております。

この第5弾プレミアム付き商品券発行事業は、第4弾を大幅に上回る発行総額2億1,000万円の事業規模となるもので、前回と同様に町内の全世帯に購入の機会を提供するため、町から事前に購入引換券を郵送して先行販売を2回実施した後、11月19日の町内在住者・在勤者を対象とした一般販売において完売したところでございます。商品券は来年2月28日を使用期限としており、町といたしましては、これまでと同様に、このプレミアム付商品券発行事業により町内における消費の拡大が図られ、町内事業者の事業継続や町民の皆さまの生活支援

につながることを期待しております。

■水産物供給基盤機能保全事業

水産物供給基盤機能保全事業により実施しております港内泊地浚渫工事につきましては、漁船が安全に航行できるよう漁港内に堆積した土砂を浚渫するもので、来年3月中旬の完成を目指し、現場施工に着手したところでございます。

魅力あふれる多様な交流を生むまちづくり

■町内道路整備事業

中央幹線整備事業につきましては、測量業務がおおむね完了し、現在は設計業務を進めているところでございます。また、用地調査業務につきましては、物件移転の補償に向けた算定を進めているところでございます。

大幡川幹線道路整備事業につきましては、本年度発注しました道路線形検討業務において、現在、地元関係者などと意見交換を重ねており、合意に向けた道路線形の微調整を進めているところでございます。本年度末までに地元の皆さまの合意が得られるよう、引き続き関係者との意見交換を重ねてまいります。

三軒屋西の宮線道路整備事業につきましては、本年度発注しました測量設計業務について既に測量業務が完了し、現在は設計業務を進めているところでございます。今後も引き続き、地権者の皆さまの協力をいただきながら、用地の取得に向けて準備を進めてまいります。

下片岡山通り線道路整備事業につきましては、片岡橋の右岸につながる延長約70メートルの歩道改良工事について、来年1月から現場施工に着手できるよう地元関係者や関係機関などと調整を進めているところでございます。

■橋梁維持補修事業

橋梁の適切な維持管理のため、町では、国の補助を受けながら長寿命化計画に基づく橋梁点検を実施し、順次、補修設計及び工事を実施しております。片岡地区の愛宕歩道橋と川尻地区の大幡川幹線排水路第2号橋梁の補修工事につきましては、9月末に契約を締結し、現在、塗装の塗り替えやひび割れの補修などを進めており、本年度末までに補修が完了する予定でございます。

次代を担う心豊かな人を育むまちづくり

■吉田町教育元気物語 TCP Triwins Plan (ティーシーピートリビンスプラン)

I C T環境の充実として進めております町内小中学校の体育館におけるW i - F i環境の整備につきましては、工事の実施に必要な設計業務委託が完了し、この設計をもとに10月25日に工事契約を締結し、現在、現場施工を進めているところでございます。本年度末までに工事を完了させ、町内全小中学校の体育館にW i - F iを完備することにより災害時避難所としての環境を整備するとともに、日常の学校教育活動においても活用していく予定でございます。

また、教職員の研修体制の充実につきましては、教職員の資質や能力向上のた

め、町内の全教職員を対象とした研修会を町教育委員会で実施しており、10月に中央小学校で、11月には吉田中学校で公開授業研修が開催されました。この研修会では、全クラスの授業が公開され、町内の各学校の先生方が参観するとともに、信州大学の佐藤和紀准教授から授業力向上を図るための指導をいただきました。佐藤准教授をお招きして開催する研修会は、住吉小学校を会場に来年1月にも開催する予定で準備を進めております。

■中学校における部活動の地域移行

6月にスポーツ庁から運動部活動の、8月には文化庁から文化部活動の地域移行に関する検討会議提言がそれぞれ出され、令和7年度末を目途に、休日の部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする改革の方向性が示されました。

11月14日に開催しました吉田町総合教育会議では、この「部活動の地域移行について」を議題として取り上げ、児童生徒や保護者、教職員に対して教育委員会が実施した部活動の地域移行に係る意識調査の内容について、教育委員の皆さまと情報を共有し、今後の方向性などについて議論をしたところでございます。会議の中では、来年度からの3年間を部活動の地域移行に向けた改革集中期間として学校教育課と生涯学習課が連携し協議会を立ち上げることを確認し、今後、部活動の地域移行について協議していくこととしております。

町教育委員会では、進行する少子化の中でも、地域の実情などに応じながら将来にわたり継続して子どもたちがスポーツや文化芸術に親しむことができる機会を確保するとともに、学力向上に係る取組を進めていくこととしております。

豊かな自然と共生するまちづくり

■上水道事業

上水道の整備につきましては、静岡県生活基盤施設耐震化等補助金を活用し、配水池から応急給水拠点となる避難所までの配水本管の布設替えのための測量設計業務を実施しているところでございます。

そのほか、川尻配水系の水道施設整備につきましては、基礎検討業務が完了しましたので、今後は、この検討資料に基づき、工事に向けた詳細な設計を進めていく予定でございます。また、老朽管の布設替等工事につきましては、本年度予定している全ての工事について発注を終え、来年3月の完成に向けて工事を進めている状況でございます。

■公共下水道事業

公共下水道事業の施設整備につきましては、社会資本整備総合交付金を活用し、事業を進めております。

管渠整備につきましては、債務負担行為を活用し、昨年度末に発注しました川尻南部汚水幹線における3件の工事を完了しており、現在は、本年度に発注しました川尻南部汚水幹線工事とマンホールポンプ場電気設備更新工事、枝線工事を

年度内の完成に向けて進めております。また、本年度も施工時期の平準化を進めるため、管渠整備に係る債務負担行為を設定するための補正予算を本議会定例会に上程させていただいております。

浄化センターにつきましては、ストックマネジメント計画に基づく電気設備更新工事と建築付帯設備更新工事や地震対策として設置する自家発電機設備に係る建築付帯設備工事の発注を終え、ストックマネジメント計画に基づく土木施設更新工事、自家発電機設備に係る電気設備工事につきましては発注に向けて準備を進めているところでございます。

そのほか、人口減少や節水型社会の進展による水需要の低減に伴う使用料収入の減少、施設の老朽化に伴う改築や更新費用の増加など経営環境が厳しくなる中、町の下水道経営の基盤を計画的に強化することや財政マネジメントの向上を目的に策定しました「公共下水道事業経営戦略」に基づき下水道使用料を改定するため、これまでに下水道料金等審議会を4回開催し、使用料の改定率や体系について協議を重ねております。また、11月25日には、総務省の経営財務マネジメント強化事業アドバイザーであり、吉田町公共下水道経営戦略審議会など町の公共下水道事業経営の健全化に向けた3つの審議会・委員会において会長を務めていただいております遠藤誠作氏えんどうせいさくを講師としてお招きし、町政懇談会を開催したところでございます。町の下水道事業を将来にわたって持続していくため、今後も引き続き下水道経営の効率化と健全化に取り組んでまいります。

行政と住民が一体となって取り組むまちづくり

■ふるさと納税推進事業

町では、平成28年度からふるさと納税推進事業をスタートし、昨年度までの6年間で約38億7,000万円の寄附をいただいております。その寄附に対し、様々な返礼品を贈ることにより町の産業や特産品などのPRに努めております。7年目を迎える本年度は、10月末時点において4億2,235万7,000円と、昨年同時期の3億8,197万6,000円を上回る寄附をいただいている状況でございます。

寄附額が増加している要因としましては、ふるさと納税をスタートして以来、事業者の皆さまに継続して返礼品の充実に取り組んでいただいているほか、返礼品の魅力が寄附者の皆さまに伝わるよう、ふるさと納税サイトに掲載する写真の見直しなどに取り組んでいただいている効果の表れであると考えております。

また、4月から「ふるなび」、7月からは「a u P A Y」、さらに9月からは「J R 東日本」のふるさと納税サイトへの掲載をスタートさせ、合計で9つのサイトを利用して、これまで以上に多くの方々に向けて町特産品のPRを図っているところでございます。これから年末に向かって、寄附の申し込みが最も多くなることが予想されますので、事業者の皆さまと更なる連携を図りながら、寄附の受付や返礼

品の発送などの業務を滞りなく進められるよう努めてまいります。

■マイナンバーカードの取得促進に係る取組

マイナンバーカードの申請につきましては、マイナポイントの申込期限の延長や、健康保険証とマイナンバーカードを一本化するなどの国の動きが報じられ、新規申請者が増加している状況でございます。

このような中、平日1日に対応できる枚数が限られますことや、平日の昼間に受け取りに来ることができない方々のための緊急措置としまして、10月22日と29日、11月26日の土曜日にカードの交付を実施したところでございます。その結果、3日間で合わせて約1,300人に交付をすることができ、11月28日時点で54パーセントまで交付率を引き上げることができました。このカードの交付申請は今後も更なる増加が予測されますことから、引き続き、毎週水曜日の窓口延長や土曜日に交付を実施するなどしてマイナンバーカードの取得促進に努めてまいります。

■第6次吉田町総合計画の策定

町政運営において令和6年度からの方向性を示す第6次吉田町総合計画の策定につきましては、町内に在住、通勤、通学している皆さまに今後のまちづくりの方向性などについてご意見を伺うため、11月12日と19日の2日にわたり「吉田町まちづくりタウンミーティング」を各地区において開催いたしました。この2日間で約70人の皆さまにご参加いただき、貴重なご意見を伺うことができました。

このほかにも、より多くの町民の皆さまの声を計画に反映させるため、この町の住みやすさや町の施策に対する満足度などを把握するための「まちづくりに関する住民意識調査」や町内在住の高校生が今後のまちづくりについて話し合う「高校生まちづくりミーティング」、町内で活動する各種団体から意見を聴取する「団体ヒアリング」などを実施し、皆さまからいただいたご意見やご提案を踏まえながら、第6次吉田町総合計画の策定を進めてまいります。

以上、本年度の主な事業の進捗状況をご報告させていただきましたが、町では、目下、令和5年度の当初予算編成を進めているところでございます。長引くコロナ禍の影響や物価高騰などにより景気は低迷し、町税等の歳入が非常に不透明な状況にありますことから、財政運営は更に厳しいものになることが予想されます。このような状況におきましても、歳入の確保をより一層推進するとともに、限られた財源を最大限に活用しながら、当町がさらに豊かで勢いがあり心を魅了する町へと躍進できますよう、引き続き、全力で町政運営に取り組む所存でございます。

町民の皆さまをはじめ、議員各位におかれましては、こうした町の姿勢をご理解いただき、町政運営に対するより一層のご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。